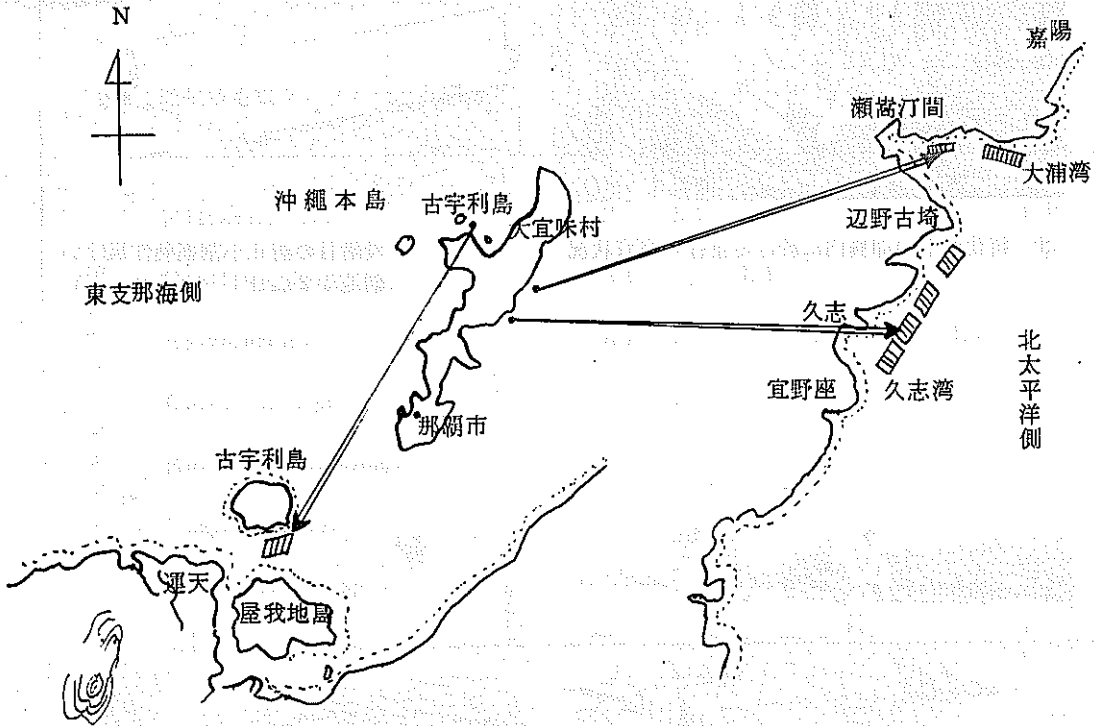


Ⅱ．沖縄産モズクの生育状況について

瀬底正武・金城宏

1. 現状と目的

1972年の7月に県下ではじめてモズクの増殖事業が宜野座村大久保地先において、実施された。実施は、普及事業の発足と同時に結成された。宜野座村大久保漁業研究会と普及室との間で行なわれ、当初は初歩的な段階として、投石基質の適石調査と、投石時期の調査を主課題としてとらえ1973年の3月まで研究会と一体となり投石を行なった。結果については、すでに報告されているように、上記課題の結果を基礎資料とし、各地域に波及しつつあるが、漁場や地域により生長、着生率等に差異がみられることから、今回は、その状況を把握する意味で今帰仁村古宇利島周辺漁場と名護市汀間及び久志、辺野古周辺漁場を主体に生育状況調査を実施したので、経過を報告する。投石漁場は図-Iの通りである。



：モズク投石漁場 (図-I 投石地点)